実践報告

特別支援学校における教育ボランティアの試行

草場聡宏・上野景三・久野隆裕

（西九州大学子ども学部子ども学科）

（令和５年１月５日受理）

A Trial of Educational Volunteer Program at Special Needs Schools

Tokihiro KUSABA, Keizo UENO, Takahiro HISANO

（*Department of Children's Studies, Faculty of Children's, Nishikyushu University*）

（Accepted January 5, 2023）

Abstract

In 2021, the Nishikyushu University and the Saga Prefectural Board of Education signed a partnership agreement. The "Educational Volunteer Program at Special Needs Schools" was implemented, with 88 students who wished to become teachers participating. While many schools restrict the acceptance of volunteers from outside to prevent the spread of COVID-19, three special needs schools accepted student volunteers. The accepted schools generally responded favorably to the program and expressed a desire to continue accepting educational volunteers from the next year onwards. Participating students made the following comments: (1) I was able to learn more about the duties of teachers at special needs schools. (2) Each child had a different level of disability, and they were not sure what kind of support to provide, but they learned that it is important to "notice" and "be close to" children who have "difficulties". (3) I was worried about contacting children with disabilities for the first time, but with support from the teachers in charge, I was able to have a valuable experience with the support of the teacher in charge.

Key word：Educational Volunteers Program　教育ボランティア
Special Needs Schools　特別支援学校

1．はじめに

西九州大学子ども学部では，2009（平成21）年の創設時，佐賀市教育委員会（以下 市教委）と連携協定を締結し，母校（学生が卒業した小学校）ではなく佐賀市内の公立小学校での４週間の教育実習や佐賀市立若楠小学校における「学校体験活動」（２年生対象選択科目として９月初旬に実施）を行い，あわせて定期的に市教委と連携協議会を開催している。2020（令和２）年４月の連携協議会の場において，特別支援学級が佐賀県内でも急増し，指導できる教員が不足していることが話題になり，出席していた当時の佐賀市教育長から「特別支援学校教員養成課程を持つ西九州大学子ども学部の強みを生かして，特別支援教育についての専門的知識・技能を持ち，特別支援学級の担任ができる小学校教諭の養成にも力を入れて欲しい」旨の発言があった。この発言がきっかけの一つとなり，子ども学科では2021（令和３）年度から「発達障害児支援に強い教員養成プログラム構築の試み」として調査・研究に取り組むなど，特別支援教育の教育・研究に一層力を入れている。

市教委との連携に加え，2021（令和３）年10月に佐賀県教育委員会（以下 県教委）と西九州大学の間でも連携協定を締結した。県教委との連携協定には，特別支援教育の充実に関する調査・研究が含まれている。前述した「発達障害児支援に強い教員養成プログラム構築の試み」に関する実態調査の対象を県内全体に広げるほか，2022（令和４）年度から「特別支援学校における教育ボランティア」を取り入れることとした。

西九州大学は従来から，全学的に「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」として学外体験活動（「あすなろう」学習）を卒業必修科目として１年次に開講している。今回の「特別支援学校における教育ボランティア」は小学校教員志望学生（２年生）を対象にした新たなプログラムである。教職課程のプログラムとしてボランティア活動を推奨している報告例は多い。例えば，島根大学教育学部[1]は「1000時間体験学修プログラム」を卒業要件としている。また山口大学教育学部が事業主体となり，山口県教育委員会，山口市教育委員会との三者連携事業で実施されている「ちゃぶ台次世代コーホート」は10年以上の歴史を持つ[2]。さらに，佐賀大学教育学部（当時は文化教育学部）と県教委は2005（平成17）年度に連携協定を締結した。以降，県内の学校での「教育ボランティアへの学生参加」や公民館等が実施する地域行事への「学生派遣」など多くの連携事業[3]を実施している。

1998（平成10）年から教員免許法特例法において，小学校及び中学校の普通免許状取得希望者に対して介護施設や社会福祉施設で５日間，特別支援学校で２日間の「介護等体験」が義務付けられた。特別支援学校を対象とする教育ボランティア事業は，地域の人材を特別支援教育のボランティア等として活用する試みとして広く行われ，2007（平成19）年には，文部科学省から「特別支援教育関係ボランティア活用事例集」[4]が公表されている。

急増している特別支援学級で指導できる教員の不足は全国的な課題である。2022（令和４）年３月に公表された「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議報告」[5]によると，「特別支援学級の担当教師の特別支援学校教諭免許状の保有率は31.1％（令和３年度時点）」である。報告の公表と同時に，文部科学省は特別支援教育を担う教師の更なる資質向上に向けて通知[6]を発出し，「全ての新規採用職員が概ね10年以内に特別支援教育を複数年経験することとなるよう人事上の措置を講ずる」などの取組を促している。

また，報告[5]では「特別支援学校の教師を目指す学生のみならず，小学校の教師を目指す学生すべてにおいて，特別支援教育に関する学びは重要なものになっている。」と述べている。この点からも今回の試行は大きな意味を持つ。

特別支援学校に限定した教育ボランティア活動は佐賀県内では初の試みとなるが，試行を通して学校教育全体の質の向上に寄与したいと考える。

2．教育ボランティアの計画から実施まで

1）特別支援学校に対する趣旨説明まで

今回の教育ボランティアの基本的枠組みは，佐賀大学文化教育学部と県教委の連携・協力事業として2010（平成22）年度に実施した「学校ボランティア」を参考にした。当時，上野は佐賀大学文化教育学部長を務め，草場も県教委と佐賀大学との交流人事で同学部に在籍し，教育ボランティア等の連携・協力事業を担当していた。

①基本的枠組みについて県教委教育振興課及び特別支援教育室との打合せ

期日：令和４年４月25日（月）場所：佐賀県庁

連携協定の大学側の担当者と県教委側の窓口である教育振興課及び直接担当する特別支援教育室の担当者で教育ボランティアの募集から実施までの基本的な枠組みについて検討した。実際にボランティア実施校となる県立特別支援学校に関しては，各学校の学校長で組織する「特別支援学校校長会」の協力が不可欠であることが確認された。そこで，以下に述べる流れで本件の趣旨説明及び実施の内容や方法について説明していくこと，ボランティア活動の実施にあたっての具体的な部分は各学校と大学担当者の間で直接連絡すること，などについて確認した。

②特別支援学校校長会会長との打合せ

期日：５月13日（金）場所：唐津特別支援学校

①の打合せを受け，特別支援学校校長会会長の麻生俊一校長（唐津特別支援学校）に教育ボランティアの概要について説明し，７月に実施予定の「特別支援学校校長会」において，大学担当者から教育ボランティアについて説明することに関する承諾を得た。その中で，2020（令和２）年から国内で急速に感染が拡大したCOVID-19の感染拡大防止のために，各学校では外部からのボランティア活動等について慎重な姿勢を継続している学校が多いことについても話題になり，大学が定めている「学外活動時のガイドライン」について追加の説明を行った。さらに，唐津特別支援学校で７月に実施予定の学校行事に関する教育ボランティアへの参加希望を受け付けた。

③特別支援学校校長会での説明

期日：７月15日（金）場所：ろう学校

特別支援学校校長会は，県立の８特別支援学校（盲，ろう，金立，大和，中原，伊万里，唐津，嬉野）と佐賀大学教育学部附属特別支援学校の９校の学校長によって組織され，定期的に情報交換等が行われている。７月の校長会において教育ボランティアの内容及び募集から学生派遣までの流れとCOVID-19感染拡大防止のガイドラインについて関係資料を配付し，説明した。実質的にはこの日から教育ボランティアの募集を開始した（８月19日（金）〆切）。また，必要に応じ大学の担当者が各学校を訪問して職員会議等での説明が可能なことについても触れた。

２）ボランティア募集から実施まで

①学生に対しての説明

特別支援学校校長会での説明と並行して，上野が担当する「教師論」の講義の中で，教育ボランティアの趣旨と内容について説明を行った。

②参加希望プログラムへの募集

唐津特別支援学校，大和特別支援学校，中原特別支援学校の３校から合計19プランの募集があった。プランの一覧表を表１に示す。COVID-19の収束が見通せない中，抵抗力が弱い児童生徒が在籍している特別支援学校では外部からのボランティア活動に対して慎重な姿勢もあり，募集する学校は予想よりも少なかった。

学生に対しては，遠隔授業にも利用しているMicrosoft Teamsに一覧表を掲示し，同時にMi-

表１　教育ボランティア プラン一覧表

プラン	学校名・学年等			期間	時間	募集人数	主な活動
1	大和特別支援学校	小学部	1～5学年	10月17日 ～ 10月22日	8:30 ～ 15:00	16名	体育大会に向けた単元の学習補助
2	大和特別支援学校	小学部	1学年	11月10日 ～ 11月11日	8:30 ～ 15:00	2名	生活補助全般
3	大和特別支援学校	小学部	2学年	10月31日 ～ 11月4日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般
4	大和特別支援学校	小学部	2学年	11月28日 ～ 12月2日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般
5	大和特別支援学校	小学部	3学年	11月16日 ～ 11月18日	8:30 ～ 15:00	3名	生活補助全般
6	大和特別支援学校	小学部	3学年	11月24日 ～ 11月25日	8:30 ～ 15:00	3名	生活補助全般
7	大和特別支援学校	小学部	３学年	12月14日 ～ 12月16日	8:30 ～ 15:00	3名	生活補助全般
8	大和特別支援学校	小学部	４学年	1月10日 ～ 1月27日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般
9	大和特別支援学校	小学部	1学年	9月15日 ～ 1月31日	8:30 ～ 15:00	2名	生活補助全般(いつでも)
10	大和特別支援学校	小学部	5学年	9月1日 ～ 1月31日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般(いつでも)
11	大和特別支援学校	中学部	1～3学年	10月17日 ～ 10月21日,23日	8:30 ～ 15:00	13名	体育大会に向けた単元の学習補助
12	大和特別支援学校	中学部	1～3学年	11月10日 ～ 11月11日	8:30 ～ 15:00	10名	どろんこ販売会準備・当日　※できれば2日間参加できる方
13	大和特別支援学校	高等部	1～3学年	10月11日 ～ 10月15日	8:30 ～ 15:30	9名	体育大会に向けた単元の学習補助　※1日のみ✕
14	大和特別支援学校	高等部	1～3学年	12月5日 ～ 12月9日	8:30 ～ 15:30	8名	生活補助全般　※1日のみ✕
15	唐津特別支援学校	小学部		12月26日 ～ 12月28日	３時間程度	何人でも可	授業で使用する大型遊具の製作補助※室内用スニーカー持参
16	唐津特別支援学校	高等部		10月21日	２時間程度	5名	まつうら祭前日準備
17	中原特別支援学校			10月27日 ～ 11月15日	9:00 ～ 15:30	2名	生活補助全般(320円で給食を提供可能　※要事前連絡)
18	中原特別支援学校			11月28日 ～ 12月2日	9:00 ～ 15:30	2名	生活補助全般(320円で給食を提供可能　※要事前連絡)
19	中原特別支援学校			1月16日 ～ 1月27日	9:00 ～ 15:30	2名	生活補助全般(320円で給食を提供可能　※要事前連絡)

crosoft Forms を使って参加希望を募った。

③参加希望学生への事前指導

期日：９月21日（水）後期ガイダンス時

教育ボランティア活動全体の「参加前→当日→参加後の報告書提出」という一連の流れ（表２参照）等について，後期ガイダンスの時間を使って参加予定の学生に対して事前指導を実施した。

表２　ボランティア５日前から報告までの流れ

(1)５日前から当日まで健康観察カードの記入
(2)「健康観察カード」をボランティア校に提出
(3)「活動報告書」をボランティア校に持参
(4)活動時間，活動内容を簡単に記入し，担当の先生に「確認印（またはサイン）」をもらう
(5)活動を通して学んだことを記入して，活動終了後１週間以内に総合研究室に提出

（ア）健康観察カード（図１参照）

大学の「学外活動ガイドライン」に従い，活動参加者に対しては，ボランティア校を訪問する５日前から当日までの毎日，検温，体調及び同居する家族の体調まで含めた健康観察を行い「健康観察カード」に記入し，当日朝に担当者に提出するよう指示した。

体調が悪いときは，総合研究室に連絡することを徹底した。学校に対して募集を始めた2022（令和４）年７月当時は，第７波と呼ばれる感染が全国に広がった時期であった。実際にボランティアに参加する10月頃には一旦収束の兆しも見えたが，その後12月まで第８波が全国に広まった。結果的に参加希望学生のうち３名が当日を含めた参加前に発熱等の症状が出たので，検査の有無に関係なく自宅待機を指示した。この３名についても日程を変更して後日活動に参加することができた。

健康観察カード

西九州大学
学年
氏名

教育ボランティアまでの日数	５日前	４日前	３日前	２日前	１日前	当　日
日　付	／	／	／	／	／	／
検温時間						
体　温						
症　状						
家族の症状						

学生のみなさんへ

●教育ボランティアを迎えるまでの５日間は、各自体調管理を徹底してください。
●毎朝、検温及び健康状態の確認を行ってください。
●家族の発熱等の風邪症状についても記載をお願いします。
●症状欄には、風邪に関する症状（のどの痛み、だるさなど）を記載してください。
●教育ボランティアの当日に必ず持参してください。
●体調が悪いときには、総研に連絡してください。総合研究室　0952-31-3035

図１　健康観察カード

（イ）活動報告書（図２参照）

学籍番号と氏名を記入した活動報告書（兼 活動参加証明）をボランティア校に持参し，活動終了時に担当者から活動参加証明として確認印（サイン可）をもらい，さらに「活動を通して学んだこと」を記入後に総合研究室に提出することで，活動への参加を確認した。学籍番号，氏名，活動内容については学生自身が記入し，ボランティア校の担当者の負担を軽くするために担当者はサインだけで済むように工夫した。

教育ボランティア　活動報告書（兼 活動参加証明）

学籍番号			氏　名			
活動日時	令和　年　月　日(　)　：　～　：　(　時間　分)					
活動場所	佐賀県立　特別支援学校					
活動内容（簡単に）						
活動参加証明	職名		氏名		印（サイン）	
活動を通して学んだこと（活動終了後に記載）						

活動終了後に担当者から「活動参加証明」欄に氏名等の記入と印(サイン)をお願いする。
その後に「活動を通して学んだこと」を記入した上で、活動終了後１週間をメドに総合研究室に提出

図２　活動報告書（兼 活動参加証明書）

なお，健康観察カード，教育ボランティア活動報告書（兼 活動参加証明）は Microsoft　Teams 上に掲示し，学生が事前に必要事項を記入した上でプリントアウトできるようにした。

④ボランティア実施校へ参加学生の通知

ボランティア実施校から提出されたプランは期日の幅があったので，具体的な活動日ごとの人数をまとめた一覧表（表３）を各学校に送付した。

なお，大学入学時から自宅近くの特別支援学校で継続的にボランティア活動を継続している学生１名はその活動への参加をもって本プログラムへの参加と振り替えた。さらに，７月に唐津特別支援学校において実施予定（実際には台風接近のために中止）だった学校行事に参加希望した学生３

表３　教育ボランティア プラン別 日程別参加学生一覧表

プラン	学校名・学年等			期間	時間	募集人数	主な活動	期日	人数
1	大和特別支援学校	小学部	1～5学年	10月17日 ～ 10月22日	8:30 ～ 15:00	16名	体育大会に向けた単元の学習補助	10月17日	１名
								10月20日	６名
								10月20日PM	３名
								10月22日	１名
2	大和特別支援学校	小学部	1学年	11月10日 ～ 11月11日	8:30 ～ 15:00	2名	生活補助全般	11月10,11日	２名
3	大和特別支援学校	小学部	2学年	10月31日 ～ 11月4日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般	10月31日	１名
								11月4日	１名
4	大和特別支援学校	小学部	2学年	11月28日 ～ 12月2日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般	11月28日	１名
5	大和特別支援学校	小学部	3学年	11月16日 ～ 11月18日	8:30 ～ 15:00	3名	生活補助全般	11月16日	１名
								11月17日	３名
								11月18日	３名
6	大和特別支援学校	小学部	3学年	11月24日 ～ 11月25日	8:30 ～ 15:00	3名	生活補助全般	11月24,25日	１名
								11月24日	２名
7	大和特別支援学校	小学部	３学年	12月14日 ～ 12月16日	8:30 ～ 15:00	3名	生活補助全般	12月14日	３名
8	大和特別支援学校	小学部	４学年	1月10日 ～ 1月27日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般		０名
9	大和特別支援学校	小学部	1学年	9月15日 ～ 1月31日	8:30 ～ 15:00	2名	生活補助全般(いつでも)	10月20日	１名
								10月27日	１名
								10月31日	２名
								11月9日PM	２名
								11月10日	１名
								11月17日	２名
								11月28日	１名
10	大和特別支援学校	小学部	5学年	9月1日 ～ 1月31日	8:30 ～ 15:00	1名	生活補助全般(いつでも)	11月10日	１名
11	大和特別支援学校	中学部	1～3学年	10月17日 ～ 10月21日,23日	8:30 ～ 15:00	13名	体育大会に向けた単元の学習補助	10月20日PM	７名
12	大和特別支援学校	中学部	1～3学年	11月10日 ～ 11月11日	8:30 ～ 15:00	10名	どろんこ販売会準備・当日 ※できれば2日間参加できる方	11月10,11日	４名
								11月10日	５名
13	大和特別支援学校	高等部	1～3学年	10月11日 ～ 10月15日	8:30 ～ 15:30	9名	体育大会に向けた単元の学習補助 ※1日のみ✕		０名
14	大和特別支援学校	高等部	1～3学年	12月5日 ～ 12月9日	8:30 ～ 15:30	8名	生活補助全般 ※1日のみ✕		０名
15	唐津特別支援学校	小学部		12月26日 ～ 12月28日 ,1月6日	３時間程度	何人でも可 ※室内用スニーカー持参	授業で使用する大型遊具の製作補助	12月26日	７名
								12月27日	６名
								12月28日	６名
16	唐津特別支援学校	高等部		10月21日	２時間程度	5名	まつうら祭前日準備	10月21日	５名
17	中原特別支援学校			10月27日 ～ 11月15日	9:00 ～ 15:30	2名	生活補助全般(320円で給食を提供可能 ※要事前連絡)	10月27日	１名
18	中原特別支援学校			11月28日 ～ 12月2日	9:00 ～ 15:30	2名	生活補助全般(320円で給食を提供可能 ※要事前連絡)	11月28日	１名
								12月1日	１名
								12月2日	１名
19	中原特別支援学校			1月16日 ～ 1月27日	9:00 ～ 15:30	2名	生活補助全般(320円で給食を提供可能 ※要事前連絡)		０名

名も含めると全体で学生88名が参加を希望した。

⑤参加希望学生への直前連絡

ボランティアの活動実施日が多様であること，参加希望学生全員が履修し，講義の中で趣旨説明した科目（「教師論」）が８月初めまでの前期科目であり講義中の確認が困難であること，申込から実施日まで間が空くこと，等の理由からボランティア実施日の10日前～１週間前をメドに参加予定学生あてに，ボランティア校からの連絡を含めた「確認」メール（図３）を送信した。

３）各学校での教育ボランティアの実際

学生は１年次の「あすなろう」で学外活動の経験がある。「あすなろう」では地域行事の準備や運営のボランティア活動が多かったため，週末や夏季休業中の活動が中心であった。今回の教育ボランティアは，学校で教育活動が行われている平日の児童生徒に対する学習補助，生活補助が中心の活動だったため，自分の講義の空き時間など時間割を考慮した

特別支援学校での教育ボランティアが近づきました。

遅刻や無断欠席は相手先に大きな迷惑をかけますので,確認のためにこのメールを送信しています。メールの内容を確認したら,「見ました」の返信をすること。

活動日：12 月 26 日(月)
活動時間：13:30～16:30　←15 分前までに現地に到着するよう心がける
活動プラン：15 唐津特別支援学校　小学部
活動内容：授業で使用する大型遊具の製作補助　※遊び場の作成
服装：長袖もしくは半袖 T シャツ,長ズボンのように動きやすい服装
持っていくもの：水筒,筆記用具,「活動報告書」,「健康観察カード(記入済み)」他,自身で必要な物
[注意事項]
※ Teams「教育ボランティア」内に保存してある「活動の準備から報告書提出まで.pdf」を参考に準備をすすめること
※　急に参加できなくなった場合は大学と唐津特別支援学校(0955-78-239△△先生)に連絡すること
【重要】活動参加予定日の『5 日前』から毎日健康観察(検温,体調,家族の体調)を実施し,新型コロナウィルスの感染者または濃厚接触者に該当する場合には,教育ボランティアへの参加はできません。
該当する場合はすぐに「総合研究室(nky_kodomo@nisikyu-u.ac.jp)」に連絡すること。

図３　実施日直前に送信した確認メールの内容例

上で参加希望日を申し込んだ。また,「あすなろう」同様，活動場所は必ずしも大学周辺とは限らなかったが，交通費補助等は行なわず，自分で交通手段を確保することにした。

参加した学生の活動報告書には,「特別支援学校の先生方の職務内容を詳しく知ることができた」,「児童一人ひとりの障害の内容や程度が異なり，どのような支援を行うか迷ったが,『困り感』をもった子どもに『気付く』,『寄り添う』ことが大切であることが分かった」,「初めて障害のある子どもと触れ合うことは不安であったが，担当の先生からのサポートもあり貴重な体験ができた」などの感想が述べられ，学生にとって有意義なボランティア活動だったと思われる。

久野・草場が10月21日に唐津特別支援学校を訪問し，学生のボランティア活動の様子を参観した。学校祭を兼ねた販売会「まつら祭」の前日で，高等部の生徒が行う準備を支援していた。窯業班や野菜班など担当部署で先生が生徒に指示している内容を受けて，ボランティア参加学生は,「生徒は何ができるか」を観察しながら，先生からの指示を参考に「どのような支援が必要か」について考えて活動を行っていた。活動終了後に，参加した学生にボランティア活動を通して学んだことや感想について尋ねたところ,「曖昧な言い方ではなく,『座ります』『お茶を飲みましょう』などのはっきりした言い方で先生方が指示していた」ことを観察することができ，勉強になったなど，有意義な活動になったことが覗われた。また，教務主任から話を伺ったところ,「(参加学生は）最初は戸惑っている様子も見えたが，具体的な作業を伴う活動だったので，生徒とともに活動していく中に段々と慣れて，積極的な声掛けや適切な支援ができるようになったようです」とのことであった。

また，同じく久野・草場が11月18日に大和特別支援学校を訪問した。時間の都合で活動途中の訪問になったため，学生からの直接の聞き取りはできず，教室の外からの参観になった。主幹教諭から話を伺ったところ，大和特別支援学校は大学に近いこともあり，全体の６割強にあたる56名が希望したが,「活動に対する姿勢は学生により大きく差がありました」とのことであった。具体例として,「(大学の授業の都合もあるでしょうが）15時までの活動に，13時30分頃に来た学生」を挙げられた。「もちろん，ほとんどの学生さんが『勉強になりました』と感想を話されました」と聞き安心した一方，事前指導の充実等「必修化」への課題も明らかになった。

３．課題と今後の展望

今回の教育ボランティア活動を実施して，次のような課題と今後の展望が明らかになった。

①今年度は試行初年度ということで段取りに手間取り，７月募集開始，10月活動開始となった。大学の長期休業中にあたる９月に活動できれば学生は参加しやすいと思われる。来年度以降は，

ア）前年度末の３月に各学校に対して募集の案内を送付。各学校で学校行事等の計画を作成する際に教育ボランティアを取り入れる。

イ）４月末～５月中旬の各学校からの募集〆切。

ウ）５月末～６月始めに参加学生の募集。

エ）各学校の夏休み時期から活動を開始

の日程で行うことで，

〇活動内容に幅ができる。

〇学生の事前指導に余裕ができる。

〇複数日にまたがる活動に参加できる可能性が広がる。

等の効果が出てくるものと思われる。

②今年度は教職必修科目の「教師論」の一部という位置づけで実施したため，開講時期の関係から，ボランティア活動参加後の省察の時間が確保できなかった。2023（令和５）年度からは２年次に新設されるゼミ科目「あすなろう（発展)」の内容として位置づけ，同じく２年次開講の選択科目「学校体験活動」と有機的に関連させ，省察の時間を確保することで，教職に関する動機づけがより明確になるものと思われる。

③具体的な活動内容が分かるように小学部，中学部，高等部と分けて募集したが，小学校教員志望学生が多いせいか，同じ日程でも小学部の活動，それも低学年の活動に学生の希望が集中した。特別支援学校の場合には，学年の違いよりも個別の違いの方が大きい場合もあるので，希望日の募集にして，担当学年は受入校の担当者に一任するような形が望ましい。

今回２校を訪問し多くの示唆を得ることができた。今回応募がなかった学校も訪問し担当者と意見交換を行い，学校の実態に応じた学習支援補助，生活支援補助の内容，希望学生の募集方法等について再検

討し，特別支援学校にとっても，教職を志望している本学の学生にとっても有意義なものになるよう，プログラムの一層の充実を図りたい。

前述した通知[6]には，特別支援教育を担う教師の専門性の向上をめざして，養成段階として「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム」の検討，採用段階として「特別支援学校教諭免許状」保有者に対する採用時の加点，新規採用10年以内に「特別支援教育を複数年経験」する人事上の措置，管理職登用時に特別支援教育経験を含める等，大学や教育委員会等の具体的取り組みが求められている。

本稿をまとめていた2022（令和４）年12月に文部科学省から「通常の学級に在籍する特別な教育支援等を必要とする児童生徒に関する調査結果」[7]が公表された。それによると「学習面又は行動面で著しい困難を示す」児童生徒の割合は8.8％と推定される。この結果を取り上げるまでもなく，インクルーシブ教育を進めていくためには，障害の有無に関わらず，特別支援学校教諭免許状の保有の有無に関わらず，すべての教師が特別支援教育に関する知識や経験をもつことが重要である。今回のプログラムを充実させ，教職課程全体の質の向上を図っていきたい。

本研究において，県教委との連携協定の締結及び「特別支援学校における教育ボランティア」を連携事業のプログラムとしての導入については主に上野が担当した。特別支援学校への具体的な説明やプログラム内容についての検討は主に久野が担当した。学生の募集や連絡については主に草場が担当した。３人で本稿の内容について協議し全体を草場が執筆した。

今回の教育ボランティア活動にご協力いただいた，佐賀県立唐津特別支援学校，大和特別支援学校，中原特別支援学校の校長先生を始め，ご担当いただいたすべての先生方にお礼申し上げます。

また，各特別支援学校や参加学生とのメールや電話での連絡・調整，問い合わせ等に対応していただいた子ども学部総合研究室のご尽力に改めて感謝いたします。

最後に，COVID-19の感染拡大防止のためにボランティア活動を含む外部人材の受入に慎重な学校も多かった。2023（令和５）年度には収束の兆しがみえ，参加する学校が増えるよう期待したい。

引用文献・参考文献

１）畑　克明・森本　直人（2005）「教育体験活動（『1000時間体験学修』）の概要」島根大学教育臨床総合研究４　pp. １～12

２）山口大学教育学部「『ちゃぶ台』方式教職研修プログラム（ちゃぶ台プログラム）」
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/edu/wp-content/uploads/sites/6/2022/01/chabudai2018.pdf（最終閲覧日　2022／12／26）

３）佐賀県教育委員会（2022）記者発表情報「令和４年度佐賀大学教育学部，佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会との連携・協力協議会　教員養成部会資料２-１『学校支援活動（旧教育ボランティア活動）』」
https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/kiji00386607/3_86607_up_8p732hcz.pdf
（最終閲覧日　2022／12／26）

４）文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2007）特別支援教育関係ボランティア活用事例集
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/012.htm（最終閲覧日　2022／12／26）

５）文部科学省（2022）特別支援教育を担う教師の在り方等に関する検討会議報告
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/173/mext_00031.html（最終閲覧日　2022／12／26）

６）文部科学省（2022）「３文科初第2668号　特別支援教育を担う教師の養成，採用，研修等にかかる方策について（通知）」
https://www.mext.go.jp/content/20220331-mxt_tokubetu01-000021707_5.pdf（最終閲覧日　2022／12／26）

７）文部科学省（2022）「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査果（令和４年）」
https://www.mext.go.jp/20221208-mext-tokubetu01-00026255_01.pdf（最終閲覧日　2022／12／26）